



伊勢型紙 干支「巳」

編集・発行

三重県障害者社会参加推進センター
公益社団法人 三重県障害者団体連合会〒514-0113 津市一身田大古曾670-2
三重県身体障害者総合福祉センター内TEL (059) 232-6803
FAX (059) 231-7182E-mail: suishin.c@mie-kensinren.or.jp
HP <http://www.mie-kensinren.or.jp>

共生社会の実現に向けて

三重県知事 一見 勝之



あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては、良き新年を
お迎えのこととお慶び申し上げます。

県では、昨年3月に「障がいの有無によって分け
隔てられることなく、お互いに人格と個性を尊重し合
いながら共生する社会の実現」を基本理念とする、
「みえ障がい者共生社会づくりプラン-2024年度～
2026年度-」を策定しました。プランに基づき、障
がいを理由とする差別の解消、権利擁護の推進、特
別支援教育の充実、障がい者就労の促進などに総
合的に取り組んでいるところです。

特に、「障害を理由とする差別の解消の推進に関
する法律」が昨年4月に改正され、事業者による合
理的配慮の提供が義務化されたことを契機に、共生
社会の実現に向けてさらに取組を強化してまいります。

今後とも、障がい者の権利擁護や、社会参加の促
進、地域生活の支援など、さまざまな障がい者施策
を推進してまいりますので、ご理解とご協力を賜り
ますようお願い申し上げます。

本年の皆様のご多幸とご活躍を心よりお祈りいた
します。

新年のごあいさつ

公益社団法人 三重県障害者団体連合会 会長 世古佳清



あけましておめでとうございます。皆
様には、健やかに新年をお迎えのことと、
お慶び申し上げます。

日頃は、三重県障害者社会参加推進センターの
活動にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年、当連合会では、11月に松阪市で開催の三
重県身体障害者福祉大会や、津市白山町で13回目
を開催し過去最高の700点を超える作品展示や16
組の皆様パフォーマンスを披露いただいた三重県
障がい者芸術文化祭などを盛況に終えることができました。
ご協力いただきました関係各位には、紙面
にて失礼しますが御礼申し上げます。

さて、障害者差別解消法の改正により、昨年4月
から事業者による合理的配慮の提供が義務化された
ことを契機に、国や県でも共生社会の実現に向けた
取組が強化されています。

このような時こそ、障がいのある私たち自身が、国、

県、市町の制度や施策への理解を深め、障がい者
の権利擁護のために組織力を維持し、その声が行政
や社会に認められるよう活動を展開していきたいと考
えています。

また、令和7年度も、各種スポーツ教室、生活安
全教室、ふれあい交流事業、相談員研修などを開
催し、相互の親睦と健康維持に努めていきたいと思っ
ております。各市町の皆様の多くの参加をお願いい
たします。

三重県障がい者芸術文化活動支援センターの活
動として、4年目となる「みえアールブリュット」を、
1月22日～26日に亀山市文化会館、2月14日～17
日に津市久居アルスプラザで開催します。是非ご観
覧ください。(詳細はHP <https://mie-asc.jp>で)

結びに、皆様の益々のご健勝を心よりお祈り申し
上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新春のお慶びを申し上げます

三重県知的障害者育成会

障がい福祉の現状を思っ（雑感）

措置制度から障害者自立支援法に変わって障がい者を取り巻く状況は大きく変わりました。

まず、行政が強権をもって障がい者への支援を決定する制度から、障がい者が、知的障がいの方々のように自己決定力がない方は障がい者の家族が、当事者の生活を考えて支援を組み合わせて契約し、支援を受けていく権利の主体者への道を開いたと言われています。

しかし、知的障がいの方の中には自己決定力が不足する方もいます。

そのために成年後見制度が作られました。亡くなった我が子のように自己決定力がない人だけではなく、自分の意思を表明できる方もいます。一度制度を使ったら一生制度の中で生きていくしかないじゃないかという声が当事者から上がってきたこともあり、成年後見制度の見直しが求められ、着手されようとしているところです。

過日の全国手をつなぐ育成会連合会の全国大会で、懇親会の時に当事者の会のメンバーである男性から聞いた言葉が今も鮮明に残っています。

成年後見制度を使うと一生使うことになる。気が合わない人だったらどうしようかと思って色々聞いたら、法テラスは3年で後見人等が代わると聞いたのでそこに頼んでいるということでした。このような考えを持てる人もいるのだと頼もしく思ったところです。

育成会が『当事者の会』を作るために助力して県外にはたくさんのができています。三重県では、大方の市でお母さんと一緒にいいと言って実際にあるのは四日市と名張だけですが、我が身を守ることが苦手な人が多い状況で県内にもっと当事者の会ができたらと願っています。

ところで、最近、障がい者支援の分野に障がい福祉とは考えられないところが増えてきています。各種不正も目を覆うような内容が報道されています。

実態は小規模入所と見まがうグループホームがありますが、私たちが考えるグループホームとは家庭的な場所であると思うのに、国が否定した『小規模入所』よりも劣悪で、専門職の配置も僅かであるところもかなり出てきて、不正が報道されることも多くあります。

このような障がい者を札束に見立てる人達に手を

出してもらいたくないと思いつつ…テレビや新聞の報道に腹を立てていても蠛蠅^{どうろうのおの}之斧でしかないなあ〜と支離滅裂な思いにふけているところです。この文章も支離滅裂ですが…

しっかりと障がい者支援をしてくださっているところの明るいニュースを待ち望む今日此の頃です。

事務局 ☎ 059-225-3930 FAX 059-225-3935

E-mail: oyanokai@eos.ocn.ne.jp

HP <http://www.mie-ikuseikai.sakura.ne.jp>

三重県精神保健福祉会

一歩、一歩の交流!!

私たち精神障がい者家族会（当事者団体）は長い間に創られた「誤解・偏見・差別」に今も苦しめられています。

「精神障がい者は危険であるという漠然とした認識」（平成16年3月 厚労省）

退院して地域で暮らしていても「危険な存在？」に思われている!

- 「医療機関で受診を断られる」
- 「ツアーから排除される」---統合失調症の人とは飛行機に乗れない!
- 「アパートの入居を断られる」
- 「不審者扱いされて通報される」
- 「小さな落書き」で逮捕され2日間も留置される
- 「小学校の隣にグループホームを建てようとしたら自治会に反対される」

いまだに精神疾患に対する誤解・偏見が上積みされています。

「統合失調症(精神分裂病)」というだけで「めったにかからない病気」「一生治らない病気」「何をしたらわからない怖い病気」と思われています。

本当にそうなのでしょうか? そうではありません!

統合失調症は

- ①全世界のどこでも人口の0.7~0.8%の割合で発症する。
育て方や遺伝が原因ではない 誰がかかっても不思議ではない病気
- ②神経伝達部の疾患…[神経伝達物質(ドーパミン)の異常]
治療薬でドーパミンを制御し、症状を安定させている。危険な存在ではない
- ③早く治療をすれば早く回復する

リハビリの進歩、治療薬の開発で「社会復帰できる程度」には殆どの人が回復する。(防衛医科大学 野村総一郎教授講演抜粋)

統合失調症(精神分裂病)の歴史的経緯は
1900年の精神病者監護法…私宅監置(座敷牢)家族
の監督義務

鉄格子の病室……「一生入院」的イメージ
2002年(平成14年)精神分裂病(100年)→統合失調
症に名称変更

2004年(平成16年)「こころのバリアフリー宣言」(厚
生労働省)

この「精神分裂病」≡「怖い!なにをやるかわから
ない!」イメージ(誤解偏見)を、少しでも払しょく
していくために昨年は桑名で「第45回精神保健福
祉研修会」を開催しました。

研修会には県下各地、特に桑員地区から300名を
超える方々が参加されました。

参加者の声の一部を紹介しますと
「バザーブースでも普通に役割を果たしていた」
「舞台での事業所紹介も、元気があって良かった」
「初めてイベントに参加した。精神障がい者の人、何
人かと話をした」
「普通の人となんら変わらない。むしろやさしい感じ
がした」
「特別な人ではないことが分かった」
「地域での活動で気軽に声をかけられる」

このように参加された方は「精神障がい者も普通
の人と変わらない」というイメージをお持ちいただ
いたと思います。

私たち三重県精神保健福祉会(家族会)はこれか
らも精神障がい者・精神疾患に対する誤解・偏見を
なくすために、あらゆる機会を通じて「当事者との
交流」を呼び掛けていきたいと考えています。

お近くに、障がい者の施設がありましたら気軽に
訪ねていただいて当事者と交流してください。

ちなみに2025年は鈴鹿・亀山地区で「第46回精
神保健福祉研修・交流会」(9月~11月)を予定し
ています。

私たち家族会は、地域での障がい者と交流の積み
重ねが、誤解・偏見・差別の解消に繋がると確信し
ています。

NPO法人 三重県精神保健福祉会(さんかれん)
事務局 ☎・FAX 059-271-5808
E-mail:sankaren@mint.or.jp



三重県視覚障害者協会

新年を迎え、皆さまにおかれましては、健やかに
お過ごしのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、三重県視覚障害者協会の活動に対しま
して、深いご理解と温かいご支援、ご協力をいただ
き、心より感謝申し上げます。

三重県視覚障害者協会では、県内の目の見えな
い方、見えにくい方々が、自立した生活を地域社会
において営むことができるよう活動を行っております。
当協会においても、会員の減少・高齢化などの課題
はありますが、県に対し令和6年度も、視覚障がい
者の職域拡大と職場環境の整備、外出の際の踏切・
横断歩道・交差点などにおける移動の安全確保、改
正障害者差別解消法の施行による合理的配慮の周
知・徹底、情報アクセシビリティの向上などを要望
するとともに、県内の皆さまに視覚障がいについて
理解を深めていただくため、啓発物の配布など、街
頭での啓発活動を実施いたしました。

また、目の見えない方、見えにくい方々が、より
円滑に日常生活を営まれるよう、三重県から三重県
視覚障害者支援センターの指定管理を受けておりま
す。支援センターでは、点字図書・音訳図書などの
図書館等情報サービスをはじめ、生活相談、白杖を
使った歩行訓練及び音訳の情報支援機器の操作訓
練などの生活訓練のほか、点訳・音訳ボランティア
の育成、パソコンなどの指導等に取り組んでおりま
す。さらに、ボランティアや付添の方など、支援して
いただく方との交流事業も行っており、コミュニケー
ションを通じての、人と人とのつながりを大切に
しております。是非、三重県視覚障害者協会、三重県
視覚障害者支援センターのホームページをご覧いた
だきたいと存じます。

結びに、新しい年が皆さまにとりまして、実り多き
年になりますよう、心からお祈り申し上げるとともに、
三重県視覚障害者協会並びに三重県視覚障害者支
援センターの事業推進につきまして、引き続き、ご
理解・ご協力をいただきますようお願い申し上げ
まして、新年のご挨拶とさせていただきます。

社会福祉法人 三重県視覚障害者協会

三重県視覚障害者支援センター

〒514-0003 津市桜橋二丁目130番地

☎ 059-228-3463 FAX 059-228-8425

HP <http://www.mieten.jp>

* ☎・FAX・Emailは協会、センター共用
協会 URL www.mie-shikaku.net
センター URL www.mieten.jp

三重県聴覚障害者協会

当協会にとって、2024年度（2024年4月～2024年12月）で、特筆すべきは、当協会会長の深川誠子が、一般財団法人全日本ろうあ連盟の理事に再度立候補し、見事に2期連続当選を果たしたことです。三重の代表として、全国でも活躍していけるよう、今後もみんなで応援していくつもりです。

他には、がんばっている人のために「あきらめない！一緒に」という応援手話ソングを初披露したこと、「県福祉大会inすずか」の参加者が400名を超え、成功裡に終わることができたこと、東海聴覚障害者体育大会を8年ぶりに三重県津市で開催できたこと、全国ろうあ者大会in和歌山に67名も参加したこと、日聴紙の長寿番付一覧表に90歳以上の当協会員を掲載できたことが挙げられます。

他の事業については下記のとおり実施できました。

5月19日(日)

「第77回三重県聴覚障害者福祉大会」(鈴鹿)

「第1回通常総会」(鈴鹿)

6月1～2日(土日)

「第35回東海聴覚障害者体育大会」(津)

6月6日～9日(木～日)

「第72回全国ろうあ者大会」(和歌山)

6月16日(日)

「第23回全国障害者スポーツ大会聴覚障害者バレーボール競技東海・北信越地区予選大会」(岐阜県山県市)

6月30日(日)

体育部「スポーツ交流会2024」(津)

7月3日(水)

高齢部「茶話会&講演会」(津)

7月7日(日)

三重通研合同企画「三重県手話通訳問題研究討論集会」(津)

7月13日(土)

女性部「2024みえデフ女性つどい」(津)

7月26日(金)

「手話通訳付き運転免許更新講習会」(津)

8月4日(日)

単発事業「学校へ行こう!」(津)

8月25日(日)

社会福祉部「教育サロン」(津)

9月22日(日)

青年部「デイキャンプBBQ」(鈴鹿)

9月25日(水)

高齢部「ぶどう狩り&敬老会」(名張)

10月6日(日)

三重県手話サークル連絡協議会共催「交流会・学習会」(津)

10月26日(土)

文化事業部「国際手話」(津)

制度委員会「学習会」(津)

11月10日(日)

「みみフェスティバル2024」(四日市)

11月13日(水)

高齢部「茶話会&講演会」(津)

11月17～18日(日月)

旅行企画「長野コース&そば体験」(長野)

関係者や会員、役員の皆様のご協力のおかげで、順調に実施できました。

2024年4月から、県理事の新体制が始まりました。創立78年目となる当協会では、これまでの実績と反省に鑑み、今後の方向性を決めていく重要なタイミングであると考えています。

当協会の正会員数は2023年度の300名と比べ、やや減少し289名となりました。それに対し、賛助会員数は昨年度より30名増加の181名（12月10日現在）です。この現状に対し、うれしいような悲しいような複雑な胸中であります。

高齢化社会の波は当協会にも押し寄せています。高齢者の孤立や地域力・仲間力の脆弱化が深刻な問題となってきている中で、若い世代の今後の活動に心配もあります。各担当の役割や責任の変化に伴い、活動を見直すうえで、慎重な選択と新たな挑戦の両立を模索することになるでしょう。それでも、さまざまな壁に対し、関係団体の皆さまとともに、諦めずに立ち向かっていきたいと思っています。

直面する多くの課題を乗り越えていくために、今後とも皆さまからの更なるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

事務局 ☎ 059-229-8540 FAX 059-223-4330

E-mail:deaf.mie@viola.ocn.ne.jp

HP <http://deafmie.cocolog-nifty.com/blog/>

三重県知的障害者福祉協会

あけましておめでとうございます。

旧年中は、当協会の活動に多大なご指導、ご支援を賜り有難うございました。今年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。



さて、今年度は、3年ごとの報酬改定がありました。当協会も日本知的障害者福祉協会を通じ国へ要望を上げていただきましたが、要望が叶ったものもあれば、叶わなかった要望もありました。当協会としましては、今回の改定内容を検証し、次回の要望に繋がっていきたくと考えています。ただ、当協会からの要望だけでは説得力が弱く、障がい者福祉団体が団結して、障がいをもった方々の生活を守る活動を進めていくことが重要と考えておりますので、今後ともよろしく願い申し上げます。

令和6年度の当協会の主な事業としましては、日本知的障害者福祉協会東海地区会の職員研究協議会が、令和6年11月6日から7日の2日間、三重県津市で220名程の職員が参加され開催しました。施設、事業所で働く職員が直面している様々な問題、課題を講演や分科会を通じて共に学び、理解を深め合い有意義な研修となりました。

会長 山野 文照

事務局 ☎ 059-268-1115 (まもり苑・本弘)

三重喉友会

当会は創立70年目になり、現在会員数は40名です。喉頭や食道の摘出手術を受け、発声機能を失った方々のための患者会です。発声教室で訓練をして日常会話が出来ようになり、社会や職場に早く復帰されることが目的です。

この他、健康相談や親睦の場としても活発な活動をしています。

このような患者会は全国にあって、NPO法人日本喉摘者団体連合会に加盟しており、各団体は互いに情報を交換しながら協力しています。

昨年5月にコロナウイルス感染症が第5分類に移行されました。県内各病院が利用可能になり、例年のように活発な活動が出来るように全会員が願っています。

●発声教室

今年の発声教室は2か所で開校しています。

・中勢地区

三重県身体障害者総合福祉センター 大研修室

毎月2回土曜日(随時) 14時～15時

・南勢地区

伊勢赤十字病院1階 山田ホール

第二木曜日 10時～12時

●研修会

- ・発声指導員養成のための研修会が、毎年10月に3日間行われ一般会員の方も参加できます。
- ・県外から発声指導のために講師を招き、集中的な

訓練により成果が上がる研修会も行っています。

●総会(発声教室、研修会) 5月下旬

発声訓練の成果として「発声コンクール」を行います。

●一泊研修旅行 未定

先輩からの手術後の体験談や、会員の悩み等を話し合ったりして親睦を深めています。

会員による発声コンクール(カラオケ大会)を行います。

●三重県がん相談支援

三重県がん相談支援事業の一環として、三重喉友会もがん患者団体としてサポーター協力しています。

※発声の事や健康相談等連絡下さい。

事務局 ☎・FAX 059-261-5257 (塚本 明雄)

Eメール aki0350@zb.ztv.ne.jp

三重県肢体不自由児者父母の会連合会

あけましておめでとうございます。また、日頃から肢体不自由児者の福祉向上にご支援いただいている関係者の皆様にご心よりお礼申し上げます。今年もよろしく願い致します。

新型コロナウイルス感染症による行動制限が解除されました。しかし、長い間継続してきた各種の行事が中断されたことにより、会員の意識に大きな変化がありました。

障がい者本人や保護者の高齢化に伴う参加する事への体力的な問題もあり、参加者の減少がクローズアップされてきました。社会参加活動としてバス旅行などを主体に計画してきましたが、今後は県下各地域に応じた事業として取組んでいく事が必要となってきました。各地域のボランティアにご協力いただき実施する事もその一つです。また、高齢化に伴う各地区社協さんへのご指導ご協力もお願いしていきたくと考えています。

会員家族をはじめ関係者のご協力を重ねてお願い申し上げます。

◇当会の活動等、詳しく知りたい方は下記へ

県肢連会長 鈴木錠平 ☎・FAX 059-333-0005

三重県脊髄損傷者協会

「コアラバイクで車いすリレーマラソン」

10月に予定していたイベントは能登半島地震からの回復が遅れ、通常のカンパができなかったためコアラバイクでの参加は中止となりました。

次回は2025年5月の開催を予定しています。5月の参加の為、コアラバイクの試乗会を開催しますので

是非ご参加ください。

試乗会

日程：2025年3月（予定）

会場：未定

問い合わせ：三重県脊髄損傷者協会

TEL 059-386-9733

E-mail y-matui@orchid.plala.or.jp

三重県から石川県へ、コアラバイクに乗ってリレーマラソンを開催します！運転可能な車いすで参加し、羽咋市の「千里浜なぎさドライブウェイ」までの道のりをリレーランで走行します。バイクイベントの「SSTR2025」に参加となります。

場所：三重県～石川県 羽咋市「千里浜なぎさドライブウェイ」

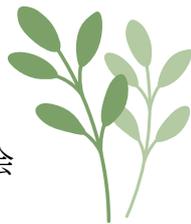
参加条件：車いす利用者、リレーランに参加したい方 SSTRとは

SSTR (Sunrise Sunset Touring Rally) は、元パリ・ダカールラリー風間深志氏が発案した、日の出とともにライダー自身で定めた日本列島の東海岸（太平洋・瀬戸内海）からスタートし、日没までに日本海の石川県羽咋市「千里浜なぎさドライブウェイ」（日本で唯一、バス・自動車・バイク等の一般車両が走行可能な砂浜、8kmの道路）にゴールするというバイクのイベントです。

「Chasing the Sun」（太陽を追い駆ける）をテーマに掲げ、東の海に昇る朝日とともにスタートし、太陽を追い駆けてながら日本列島を横断し、西の海「千里浜」に沈む夕日を見送るという、かつてない壮大なスケールのアドベンチャーラリーです。

優劣をつけるものではなく、それぞれのライダーが自身の旅のテーマに沿い、無事にゴールゲートを通過し、全国から集まったライダー同士で交流を深めることを、主な目的とした自己完結型のラリーです。

コアラバイクは、スクーターをベースに車体後部に昇降用スロープが設けられおり、車椅子のまま乗車し、ハンドルを使い運転します。サイドカーが付いており、健常者も一緒に乗車できるようになっていて、普通自動車免許を持っていれば初心者でも運転ができます。



コアラバイク



コアラバイク乗車の様子

事務局 ☎ 059-386-9733（松田）

三重難病連

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

三重難病連は現在21（2団体活動休止）の当事者団体で構成されており、三重県難病相談支援センター事業を県から受託して運営しています。

2月のRDD（世界稀少・難病性疾患の日）に合わせ、難病による障がい者の方やその家族、地域住民等を対象としたイベントを実施しております。

また、津駅と各保健所窓口でティッシュを配る予定もしております。

このイベントが難病患者と社会や地域住民とをつなぐ架け橋となり、稀少・難治性疾患の認知度向上になることを期待しております。

●疾患別相談（毎週火・木曜日10時～16時）

三重難病に加盟している団体の相談員が療養相談や生活相談をお受けします。同じ病気の方々の悩みや、様々な問題について同じ立場で一緒に考え、問題解決のお手伝いをします。疾患によって担当日が決まっておりますので、詳しくは下記の三重県難病相談支援センターへお電話でお問合せ、またはホームページでご確認下さい。

●就労相談

三重県難病相談支援センターでは、就労支援の担当がお仕事に関するご相談を受けています。また、毎月第4水曜日10時～16時には、ハローワークの難病患者就職サポーターによる相談・支援も実施しています。※都合により時間を変更する場合がございます。（☎ 059-223-5045）

●小児慢性特定疾病に関するご相談

お子様のご病気に関しての困りごと・お悩みについて、担当の相談員がご相談をお受けします。

（☎ 059-223-5046）

【三重県難病相談支援センター】☎ 059-223-5035

<http://www.mie-nanbyo.server-shared.com/>

三重県身体障害者総合福祉センター

身体障害者福祉センター（A型）では、各種相談の実施、介護保険・医療保険によるリハビリテーションの実施、福祉用具や自助具の普及促進・相談、障がい者スポーツの推進などを行っています。また、福祉用具セミナーや福祉用具フォーラムを実施したり、福祉用具展示コーナーでは様々な福祉用具等を見学していただけます。

障がい者スポーツ推進につきましては、令和6年

10月26日から3日間実施されました「全国障害者スポーツ大会SAGA2024」に、三重県選手団として、選手・役員96名を派遣し、個人競技では30個のメダルを獲得することができました。普段の練習の成果を出し切れた選手もいれば、悔しい思いをされた選手もありました。しかし、大会はたくさんのボランティアで運営され、常に笑顔で接していただき、和やかなムードに包まれました。閉会式後は記念撮影を行い、別れを惜しむ場面も見られました。令和7年度はお隣の滋賀県で開催されます。障がい者スポーツへの取り組みをさらに進め、障がい者の社会参加を支援してまいります。

また、障害者支援施設（生活援助棟）では、身体に障がいがある方、高次脳機能障がいがある方や難病の方に対して、障害福祉サービス（施設入所支援・自立訓練（機能訓練・生活訓練）就労移行支援・短期入所）を提供しています。高次脳機能障がいに関するの困りごと・お悩みについては、担当の相談員がご相談をお受けしていますので、お気軽にお電話してください。【☎059-231-0037】

本年も一年間よろしくお願ひいたします。

事務局：三重県身体障害者総合福祉センター
☎ 059-231-0155（代表） FAX 059-231-0356
HP：https://www.mie-reha.jp/

三重県立特別支援学校長会

旧年中は本県の特別支援学校の教育活動にご支援・ご協力を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

思い返せば昨年は、元旦に能登半島地震が発生し、8月には南海トラフ地震臨時情報が発表されるなど、身近に災害の恐怖を感じる1年でした。

全国の特別支援学校長会等でも被災地の体験が生々しく報告され、大災害への対処が大きな話題になっています。本県の特別支援学校においても各校が防災マニュアルを再点検し、実効性の高い新たな改善策を大急ぎで準備しているところです。

このような中、三重県立特別支援学校長会（特長会）では、特別支援学校PTA連合会（特P連）と連携して南海トラフ地震への備えについて検討をしています。もちろん、これまでも特長会と特P連との会議の場では障がい種別を超えて発災対策について協議を重ねてきましたが、今年度はより深刻な受け止めのもとで具体的に協議しています。

なお、このことについては12月に特長会と特P連

とが三重県子ども・福祉部との意見交換会を持ち、防災をテーマに具体的な心配事や要望をあげたところです。いつ起きるか分からない災害であればこそ、予想できる事態に対して可能な範囲で備えを進め、各関係機関と課題を共有することで少しでも不安を和らげていくことが大切であると感じて取組を進めています。

また昨年、こちらも報道等で大きく取り上げられたためご承知のことと存じますが、学校現場における教員不足が深刻な問題となっています。全国的な教職志望者の減少によって教員の確保が厳しい状況となっており、教員の養成や確保は国を挙げての喫緊の課題となっています。このことは本県でも同様であり、各学校現場でその対応に苦慮しているところです。

殊に特別支援学校では、個々の児童生徒の実態に応じた教育を進める上での専門性が多岐にわたる中で、教員の確保が求められることとなります。具体的には児童生徒の人権を尊重できる豊かな人間性を前提にした、障がい種別に求められる指導力、ICTの活用能力などの備わった人材の確保と育成が急務です。看護師や理学療法士など専門職種の配置も求められています。特長会ではこれらの対応について県教育委員会と連携し、まさに新しい時代の特別支援教育を推進していくための体制の充実を図っているところです。

今回の報告では、災害対応と教職員確保に係る課題を共有いたしました。いずれの課題も学校現場だけで対処可能なスケール感ではなく、様々な各関係団体・機関の皆様との連携協力によって、はじめて解決への道筋が見えるまさに巨大な壁です。つきましては本会の取組に引き続き、ご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

事務局：三重県立城山特別支援学校
☎ 059-234-3431（森井博之）

独立行政法人高齢・障害・求職者 雇用支援機構三重支部

三重障害者職業センター

- ① 一般企業で働くことを希望する障害のある方に対して、ハローワークや関係機関と連携し、就職への準備を整えるための相談・職業準備支援、就職した職場に適応するためのジョブコーチ支援、休職している方の職場復帰のための支援などの各種支援を行っています。

- ② 事業主の方に対して、障害者雇用の進め方や雇用管理に関する相談・支援を行っています。
- ③ 障害のある方の就労支援を行っている関係機関の方に対して、就労支援に関する助言や研修などを行っています。

【お問合せ】津市島崎町327-1(ハローワーク津3階)
☎ 059-224-4726 FAX 059-224-4707

高齢・障害者業務課

- ① 事業主の方に対して、障害者雇用納付金制度に基づく納付金申告申請書・調整金支給申請書等の受付や相談を行っています。
- ② 障害者雇用への理解を広げるため、三重県・三重労働局の共催のもと「三重県障害者技能競技大会(アビリンピックみえ)」を開催しています。

【お問合せ】津市島崎町327-1(ハローワーク津2階)
☎ 059-213-9255 FAX 059-213-9270

ます。過酷な地震と水害被害からの復興途上ですが、被災時の様子や、どう乗り越えて来たか、また私達の支援は受ける側からはどうであったかも伺える機会です。一般参加大歓迎です。

- ・2025年1月26日(日)10時~11時30分
- ・三重県教育文化会館 第2会議室
- ・社会福祉法人弘和会理事長 畝 和弘氏
- ・申込先 E-Mail:masumasu-123@outlook.jp



一互一笑のスタッフ、
輪島市ボラ連の皆さんと



輪島市ボラ連のみなさんと焼きそばを作る

会長 川瀬みち代
事務局：三重県ボランティアセンター
☎ 059-229-6634

三重県ボランティア連絡協議会

平素は当会の活動にご理解ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

三重県ボランティア連絡協議会は、能登半島地震で被災した輪島市の皆様への支援を継続しています。被災1ヶ月後の2024年2月4日~7日に輪島市の福祉避難所への炊き出しに行きました。約30人の避難者の皆さまへの食事の提供で、福祉避難所の現実を目の当たりにしながらも、被災された皆様の感謝の声に元気付けられ、継続的な支援を決意しました。

その縁がつながり8月1日には「能登半島地震1.1ともしびの集い」として、10月26日には「手つなごう」というイベントとして、輪島市の多機能ライフサポート一互一笑という福祉施設を会場に、地元の輪島市ボランティア連絡協議会の皆さんと一緒に炊き出しと衣類等の無償譲渡会を開催しました。このイベントには会場周辺の皆様や、近くの仮設住宅にお住いの方にも参加いただきました。また、輪島市ボラ連には、被災されながらもこの活動に参加されている方もおられ、心を打たれました。また、10月27日には輪島市門前町を訪問し、門前町のボランティアの皆さんと交流会を持ち、その後門前町の復興に尽力する若いスタッフの情熱あふれるお話を聞きました。

三重県ボランティア連絡協議会では、今後も継続的に訪問をしていきます。

●講演会のご案内

今年1月26日には、輪島市から一互一笑を運営されている弘和会の理事長をお招きし講演会を開催し

市町別手帳交付者数

(身障・療育：令和6年4月1日現在、精神：令和6年3月31日現在) (単位：人)

市町名	身障手帳	療育手帳	精神保健福祉手帳	市町名	身障手帳	療育手帳	精神保健福祉手帳
津市	10,317	2,782	3,356	東員町	787	191	197
四日市市	9,436	2,747	3,484	菟野町	1,275	411	342
伊勢市	5,143	1,039	1,209	朝日町	231	87	69
松阪市	6,112	1,569	1,720	川越町	372	126	145
桑名市	4,308	1,221	1,703	多気町	542	162	98
鈴鹿市	6,749	1,993	1,860	明和町	943	203	189
名張市	3,376	862	990	大台町	393	87	54
尾鷲市	1,087	180	124	玉城町	562	161	104
亀山市	1,694	466	439	度会町	370	64	61
鳥羽市	1,063	186	130	大紀町	494	79	58
熊野市	931	215	167	南伊勢町	909	142	90
いなべ市	1,426	398	348	紀北町	773	178	119
志摩市	2,185	378	488	御浜町	371	96	59
伊賀市	3,940	964	843	紀宝町	441	111	85
木曽崎町	197	53	46	その他	293		
				県合計	66,720	17,151	18,577

ご協力をお願い

日頃は温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。当事業所は、社会福祉法人日本身体障害者団体連合会協賛のもと、全国的組織で福祉事業を実施しています。皆様のご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

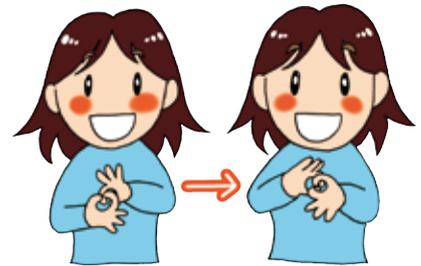
日本身体障害者団体連合会事業所
(お問い合わせ) 電話 (フリーダイヤル)
0120-263-323

日本では
初めての開催

みんなで応援しよう！ 「東京2025 デフリンピック」

デフ (Deaf : 耳が聞こえない) アスリートによる国際スポーツ大会「デフリンピック」が2025年、日本で初めて開催されます。国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD) の主催で4年毎に開催されるこの大会は、1924年にパリで第1回の夏季デフリンピックが開催されてからちょうど100周年となります。国際手話のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴です。

記念すべきこの大会をぜひみんなで応援しましょう！



デフリンピック

大会の概要

名称	【正式名称】第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025 【略称】東京2025デフリンピック		
大会期間	2025年11月15日～26日(12日間)		
会場	東京、福島、静岡	参加国	70～80か国・地域
参加者数	各国選手団等：約6,000人(選手約3,000人、ICSD役員・SD・審判・スタッフ約3,000人)		
競技数	21競技 陸上、バドミントン、バスケットボール、ビーチバレーボール、ボウリング、自転車(ロード・MTB)、サッカー、ゴルフ、ハンドボール、柔道、空手、オリエンテーリング、射撃、水泳、卓球、テコンドー、テニス、バレーボール、レスリング(フリースタイル・グレコローマン)		

令和7年 三重県交通安全県民運動

三重県交通安全県民運動スローガン

やさしさが 安全つなぐ 三重の道
～歩行者の ハンドサインは 赤信号～

年間重点目標

- (1) こどもと高齢者の交通事故防止
- (2) 横断歩道における歩行者優先の徹底
- (3) 歩行者の交通ルール遵守の徹底
- (4) シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- (5) 飲酒運転等の根絶
- (6) 自転車・特定小型原動機付自転車利用時のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底
- (7) 夕暮れ時又は天候に応じた早めのライト点灯の推進
- (8) 反射材用品の普及促進

期間を定めて行う運動

◆年間運動

思いやりとゆずりあい交通事故をなくす年間運動

◆各季運動等

春の全国交通安全運動	4月 6日(日)～ 4月 15日(火)
夏の交通安全県民運動	7月 11日(金)～ 7月 20日(日)
秋の全国交通安全運動	9月 21日(日)～ 9月 30日(火)
年末の交通安全県民運動	12月 1日(月)～ 12月 10日(水)
夕暮れ時、ちょっと早めのライト・オン運動	10月 1日(水)～ 12月 31日(水)

◆日を定めて行う運動

交通事故死ゼロを目指す日

全国交通安全運動期間中に実施予定

交通安全の日 横断歩道“SOS”の日	毎月 11日
高齢者交通安全の日 (セーフティー・シルバー・デー)	毎月 15日 (S・Sデー)
自転車安全対策強化日 (セーフティー・バイシクル・デー)	毎月第一月曜日 (S・Bデー)
三重県飲酒運転0をめざす推進運動の日	12月 1日

令和6年度三重県障がい者芸術文化祭

～文化で交流しよう 芸術で友達になろう～

11月22日（金）～11月24日（日）津市白山総合文化センターに於いて、三重県障がい者芸術文化祭が開催されました。天候にも恵まれ、県内各地より1,734名の来場がありました。障がいのある方が自身の能力を発揮した作品展は合計724点と過去最高の出展があり、個人の作品は絵画278点、写真39点、書道47点、陶芸27点、手芸76点、工芸78点、俳句13点、貼り絵・その他120点の計678点、共同作品も28点と多数出展がありました。県立特別支援学校コーナーでは全18校の力作が並びました。また、ステージは16組の出演があり、歌唱、楽器演奏、ダンス、演劇、それぞれのジャンルで個性豊かな表現、パフォーマンスを披露していただきました。障がいの有無を超えて、芸術文化による交流が深まった3日間となりました。文化祭の様子は、左記の三重県障がい者芸術文化活動支援センターのホームページから閲覧することが出来ます。



<https://mie-asc.jp>

サブタイトル

～文化で交流しよう 芸術で友達になろう～



会場



表彰式



作品会場



三重県知事賞



絵画
夕陽



写真
おばあちゃん また来るね



書道
開



陶芸
まもり神



手芸
肩掛けバッグ



工芸
星空に架ける想い



貼り絵・その他
impulse



俳句

特別支援学校
の作品



共同
作品



ステージ
発表



令和6年度三重県障がい者芸術文化祭 受賞者一覧

賞	部門	氏名	作品名(俳句)	所属等又は市町名
三重県知事賞	絵画	木下 千晴	夕陽	そらまめ
	写真	森 千洋	おばあちゃん また来るね	鈴鹿市
	書道	加藤 綾太	開	そらまめ
	陶芸	世古 卓也	まもり神	社会福祉法人ベテスタ こいしろの里
	手芸	草野 義雄	肩掛けバッグ	松阪市身体障害者福祉協会
	工芸	桑木 雪美	星空に架ける想い	NPO法人ぷてい・ぼぬーる
	俳句	小林 寛久	万緑の誕生 やわらかな雫	桑名市
	貼り絵・その他	諸戸 隆輝	impulse	社会福祉法人あゆみ 生活介護事業所あゆみ
三重県議会議員賞	絵画	八田 重一	燃えた男	まつさかチャレンジドプレイス希望の園
	写真	小柴 正信	ピッカピカの1年生	津市身障者福祉連合会安濃支部
	書道	加藤 弘貴	楽しい己書	八野就労支援センター(社会福祉法人 伊勢亀鈴会)
	陶芸	尾上 隆之	千成ひょうたん	松阪市
	手芸	永田 有美	fun time!	社会福祉法人あゆみ 生活介護事業所あゆみ
	工芸	水野 裕也	季節のあそび	生活介護事業所ぷらま
	俳句	みるる	へびあな こびと こども 蛇穴で小人の子供かくれんぼ	松阪市
	貼り絵・その他	伊藤 寛市	無題	特定非営利活動法人 裕 生活介護サービスあゆか
実行委員会賞	絵画	岡田 彩果	貴久生 さま	工房えがお
	写真	小川菜々美	私の好きな人たち	社会福祉法人あゆみ 生活介護事業所あゆみ
	書道	豊濱 駿輔	泡	就労継続支援B型事業所 あぐり工房土屋
	陶芸	山本満智子	花器	松阪市身体障害者福祉協会
	手芸	後藤 敦子	木綿の花(チューリップ・はつゆき・かずら)	桑名市身体障害者福祉協会多度支部(多度すやかセンター)
	工芸	林 岳人	廢材で作ったペーパーフラワーリース	伊勢亀鈴会 きれいなサポートステーション
	俳句	瀬川 令子	連れ添ふて子燕なりの餌探し	大台町障害者福祉会
	貼り絵・その他	辻岡 大介	伊勢神宮奉納花火大会	社会福祉法人 まほろばの里 多機能事業所 上野作業所
きらめき新人賞	絵画	中西 琉遊	ボクの大スキなピアノの先生	鈴鹿市立白子中学校
	写真	長岡 美樹	美しい世界	生活介護センター NEIRO
	書道	森田 大志	季節を感じよう!	八野就労支援センター(社会福祉法人 伊勢亀鈴会)
	陶芸	堂東 信子	塩釉盛鉢	松阪市障害者福祉センター
	手芸	川口 真理	まりりんたずねて三千里	就労継続支援B型 ピュア
	工芸	Tsukumo	ツクモハウス	度会町
	俳句	片桐てるゑ	目を病みし夫 ベランダに花火聞く	桑名市身体障害者福祉協会
	貼り絵・その他	ジュンスー	道と	独立行政法人 国立病院機構 榊原病院
奨励賞	絵画	稲垣 康夫	息子と一緒に草原へ	生活介護センター NEIRO
	絵画	菅尾 博司	蒸気機関車	社会福祉法人 名張育成会 ワークプレイス葉 アトリエ彩
	絵画	大西 裕次	楽園	NPO法人 工房ゆう
	写真	山崎 倫敬	Samayou	津市身障者福祉連合会安濃支部
	書道	山下 芭奈	愛	三重県立聾学校
	陶芸	永田 実	ピースフル	社会福祉法人ベテスタ こいしろの里
	手芸	零	あまりにも海の外が美しかったので~Shall we dance?~	NPO法人 工房ゆう
	工芸	水腰 貴子	家族へのプレゼント	社会福祉法人あゆみ 生活介護事業所あゆみ
	俳句	落合 恵美	故郷の川で遊びし遠き日々	障害者支援施設 菰野聖十字の家
	貼り絵・その他	前川 智美	蝶と蓮	障害者支援施設 菰野聖十字の家
	貼り絵・その他	小林 明	ぼくのさくひん	グリーンハイッツしらさぎ
サブタイトル	宇都宮 崇	文化で交流しよう 芸術で友達になろう	桑名市	

受賞おめでとうございます

第42回東海テレビひまわり賞

山根 秀生 (名張市)

1歳半でポリオウィルスに感染し、歩行訓練の毎日。4歳で数歩自力で歩けるようになり、中学時代には自転車も克服した。中学から卓球を始め、社会人になってから障がい者の卓球クラブに入会。平成元年、アジアパラ競技大会の前身「第5回フェスピック神戸大会」へ卓球日本代表選手として出場、団体銀メダル獲得。平成6年「第6回フェスピック北京大会」へ2期連続出場も果たした。

平成24年5月に名張市身体障害者互助会に入会。平成29年4月から地区役員に就任。平成31年4月からは書記として団体本部の役員となった。令和3年4月からは事務局長と書記・スポーツ文化教育担当部長を兼務。障がい者の自立し充実した人生の手助けをしている。

三重県医療保健及び子ども・福祉関係功労者表彰

○自立更生者表彰

藤本 春生 (三重県難聴・中途失聴者協会 理事)

○ボランティア功労

自助具工房くわな (桑名市)

障がいを持つ当事者やケアマネージャーなどの関係者からの要請により、自助具の修理・製作を行う活動を多年に渡り継続している。またホームページで活動内容の発信、会員募集を行う等、団体の存続や周知に向けた活動にも積極的に取り組んでいる。

要約筆記サークル カワン

「聞こえない・聞こえにくい」人に、文字で伝える通訳をし、障がいをもつ人の社会参加の手伝いをする。県や市、障がい者団体から依頼される要約筆記や、個人からの依頼(主に病院、学校、地区集会)のノートテイクを行っている。また、難聴者の障がいに関する広報活動や要約筆記者育成事業のお手伝いも行っている。学習会や研修へ参加協力し、難聴者理解への啓発活動や要約筆記普及活動に努め、地域活動にも貢献している。

菊田 明子 (亀山市)

長年、ボランティア教室の準備や当日の手配などや、あいまつりなどのイベント、福祉サポート隊やボランティア連絡協議会活動に協力し、ボランティア活動に尽力している。現在は、障がい当事者グループ「亀の会」の代表としてもボランティア活動に尽力している。

三重県地域スポーツ推進表彰

○地域スポーツ推進優良団体

みえボッチャ協会

社会福祉功労者に対する厚生労働大臣表彰被表彰

○社会福祉事業従事者

倉田 輝美 (津市)

社会福祉法人津市社会福祉事業団 はくさん作業所 所長

ボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰

【表彰「個人」部門】

寺本 正子 (川越町)

【表彰「団体」部門】

小俣ハローメイト夢てらす (伊勢市)

鈴鹿自助具倶楽部ダブルシュークリーム (鈴鹿市)

生涯スポーツ優良団体文部科学大臣表彰

特定非営利活動法人セイラビリティ三重

三重県を中心に年齢や障がいの有無に関係なく、だれもが一緒になって楽しめるユニバーサルデザインの小型ヨット「ハンザヨット」を使ったセイラビリティ活動をされています。

第39回障害者による書道・写真全国コンテスト

【写真部門フリーの部】

銅賞 垂坂山ブルーミングハウス ご利用者様「アブラゼミ」

第70回 三重県身体障害者福祉大会会長表彰

1. 自立更生者

針 山 示代子 (菟野町)

2. 団体育成功労者

夏 井 好 子 (菟野町)

森 本 豊 子 (津市)

杉 谷 綾 子 (松阪市)

小笠原 兵 衛 (多気町)

瀬 川 令 子 (大台町)

中 山 啓 一 (鳥羽市)

梅 谷 忠 一 (南伊勢町)

谷 口 玲 子 (伊賀市)

3. 奉仕活動功労者

井 奥 つな子 (熊野市) 【代表 熊野市身体障害者(児)福祉連合会】

山 田 チエ子 (名張市) 【付添(会場の視覚協会席を案内) パラスポーツ指導員】

見 並 十四生 (大紀町) 【大紀点訳友の会】

青 木 由香里 (津市) 【声のポスト】

馳 平 麗 子 (鈴鹿市) 【音訳グループ鈴の音】

清 水 徳 子 (四日市市) 【朗読録音奉仕】

4. その他の更生援護功労者

濱 口 聡 (鳥羽市) 【代表 鳥羽市障がい者互助会】

